B-1：研究コンプライアンスとリスク管理

開催日時・会場　9月18日（金曜日） 10:45 - 12:15 会場D

オープンサイエンス時代における研究力強化のあり方を考える
―研究データ管理についてURAは何ができるか？―

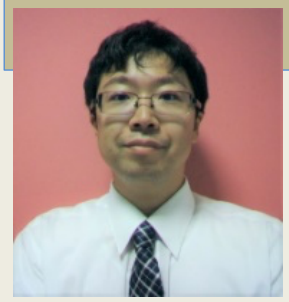
大学・研究機関の研究による成果は、論文や学会発表などの形で公表される。このような研究の成果をより広く、より容易に利用できるようにすることで、知の創出に新たな道を開き、イノベーションの創出につなげることを目指す考え方が「オープンサイエンス」である。この考え方のもと論文はインターネット上で容易にアクセスできるように整備が進められてきた。近年、論文だけでなく、論文の主張の根拠となるデータ(以下「研究データ」)をも公開しようという動きが注目されている。大学・研究機関として研究データの公開を促進するにあたり、ポリシーの策定、リポジトリ・ストレージ整備、データマネジメントプラン作成支援やデータの公開/非公開の選別等が必要となる。こうした活動は「研究データ管理」と呼ばれ、図書館・情報基盤関連部署に限らず、執行部、研究推進関連部署やURAなど多様なステークホルダーの連携が必要とされている。本セッションでは、特にURAの立場から研究データに関わる業務に対しどのような貢献ができるのかという問題意識のもと、主に研究データに関するポリシーの策定や、データマネジメントプラン作成に関するテーマを扱う。本セッションは「研究データ管理」のビギナーの聴者を想定しており、以下を狙いとする。

(1) 研究データに関するポリシーの必要性を理解する。ポリシー策定の事例を通じ、ポリシー策定までのロードマップを把握する。ポリシー策定に際して難航する点とその解決策を把握する。

(2) 研究データ管理計画(Data Management Plan; DMP)とは何かを理解する。研究者からのDMPに関する問い合わせに対応できるための知識を得る。

セッション担当者

渡邉　幸佑: 東京都立大学 総合研究推進機構 URA



2019年4月より東京都立大学(旧:首都大学東京)総合研究推進機構URA。研究資金申請支援等のプレアワード業務,研究IR,広報業務に従事。以前は地方公共団体の文書館にてアーキビストとしての従事。

B-1 :研究コンプライアンスとリスク管理

登壇者

松井　啓之: 京都大学 経営管理大学院/大学院経済学研究科 教授
京都大学 図書館機構 副機構長

リサーチデータポリシー策定ワーキンググループの中心を担い,国内の大学の先駆けとして「京都大学研究データ管理・公開ポリシー」を策定・公開。専門分野は,計画理論,意思決定支援,ゲーミングシミュレーション。博士（工学）。

波羅　仁: 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
情報基盤事業部 調査役

民間企業を経て2006年からJST。JSTでは国際事業、戦略事業、経営企画部などを経て2019年から現職。現在はオープンサイエンス支援グループを兼務する。これまで、JSTのオープンサイエンス方針（2017年）の策定にかかわってきた。オープンサイエンス方針においてはデータマネジメント（DMP）の取扱いについても記載している。JST内のDMPの運用を概観する立場にもある。

梶野　顕明:茨城大学 研究・産学官連携機構 URA

2012年　名古屋大学工学研究科量子工学専攻博士後期課程修了、博士（工学）。その後、情報通信研究機構未来ICT研究所・研究員を経て、2015年から茨城大学URAとして活動。理工系担当として、科研費含む外部資金申請、産学官連携、IRなどに従事。最近の個人的ホットトピックは、「″学問の自由″と″研究経営″との平衡」、「地域イノベーションの起こし方」、「働き方の未来」。